

子供への 温かいご飯

岡崎市教育委員会委員

畔柳美奈子 氏



教育随想

「お母さんは子供を太らせるのが好きなんだね。」と子供によく言われる。まさにその通りなのである。とにかく、子供にご飯をお腹いっぱい食べさせてたくて仕方がない。毎日の家庭の食事は「早い・安い・うまい(つもり)・温かい」が大原則だと私は思っている。働く母としては、時間と闘いながら、少しでも安く、なるべく手作りで、冷めないうちに出したいと日々心掛けている。

私は、教育委員として各小中学校に学校訪問をさせていただいている。実は、毎回お昼にいただく給食を、心密かにとても楽しみにしている。私の世代も小学校一年生より給食のお世話になっていたが、確か、学校の給食室でおばちゃんが手作りしているのをぞいた記憶がある。温かくておいしそうな香りが流れ、

給食の時間がとても待ち遠しかった思い出がある。

新しい北部給食センターが、平成十九年二月に竣工式を迎え、最新式の施設に生まれ変わった。一日一万二千食の調理能力を備え、四月からさらに安心・安全でおいしい給食を子供たちに提供していただけることになっていく。母としては、とてもありがたい、岡崎の子供たちは幸せだと思う。

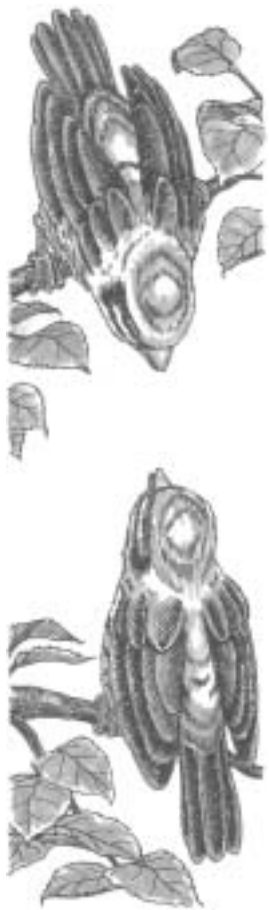
人間、空腹のときには心がカリカリとし、いらいら感が増し、優しい気持ちになれない。反対に、お腹が

いっぱいになると笑顔で幸せな気持ちで満ちてくる。

人の命を大切にしない事件が毎日のように新聞やテレビ等で報道されている。きっと犯人は、お腹がぺこぺこなんだろう。子供の成績も行儀が悪いのもいたずらも、少しでも目をつぶってあげよう。

命あるものを大切に、人に対して思いやりを持つ子供を育てていくことが、今の時代最も大切なことではないだろうか。

(くろやなぎ みなこ)



平成19年4月1日

4月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

| | |
|------------------------------|-------|
| 教育随想 | 1 |
| 岡崎市教育委員会委員 畔柳美奈子氏 | |
| この人に聞く | 2 |
| 日本空手道不動産 康生支部・城南支部 館長 鬼頭 昇希氏 | |
| 羅針盤 | 2 |
| 連尺小学校長 | 福應 謙一 |
| ふれあい | 3 |
| 常磐東小 | 鈴木 郁 |
| 常磐中 | 中里 芳弘 |
| 特集 | 4 |
| 平成19年度 学校教育の視点 | |
| お知らせ | 6 |
| フォト・ヒストリー | 8 |
| 一人一鉢栽培(昭和38年) | |
| この本を | 8 |

ふるさとシリーズ

この人に聞く



基本が大切

日本空手道不動会

康生支部・城南支部 館長

鬼頭 昇希 氏

「最初に教えるのは、挨拶や礼儀などの基本的なことです。折り紙で鶴を折るときでも、始めの一折りが大切です。これがずれてしまうと、その後にくら上手に折っても鶴はいびつになってしまいます。教えることも同じで、基本的な挨拶や礼儀などができていないといけません。」

「空手の試合では、勝ち負けがあ

ります。試合に負けるときは反省し、勝ったときにはおごらず、感謝の気持ちを持ってほしいです。そして、人に好かれる人間になってほしいのです。誰でも、人に嫌われるよりも好かれるほうがいいですよ。挨拶や礼儀ができていれば、好感を持たれます。だから人に好かれるためにも、基本的なことが必要なのです。」

「心は強くするために我慢することです。『忍耐』という漢字には、心が入っていますよね。つまり、我慢することが心を養うのです。もちろん他にも『愛』など心の入っている漢字を思い浮かべれば、それらがすべて心の育成につながっていくことに気付くでしょう。」

話をしている中でも、常に謙虚な姿勢を見せていた鬼頭さんの願いは、すべての人が幸せになることである。

「幸せになるためには、たくさん友達や知り合いがいたほうがいいでしょう。そのためにも、人から好かれることが必要です。」

好かれるためには、基本的なことが大切であり、それが幸せにつながっていく。基本的なことを徹底している鬼頭さんの近くには、常に多くの人が集まっている。

氏名 きとう しょうき
生年月日 昭和三十七年三月十二日
住所 岡崎市康生町五六五―一二



「挨拶」は事の始まり

連尺小学校長 福應 謙一

教師は「仕事」だから、子供たちに挨拶をすると耳にしたことがある。裏を返せば、「私事」だったら挨拶をしないということであろう。そんなものか、そんな風に受け取られているのかと憤慨した覚えがある。一般論かと思われるが、はたしてそうだろうか。たまたま出会った近所の教師をしている人が不機嫌で挨拶をしなかったのか。

言い換えれば、子供たちは仕事の挨拶で納得していることになる。これはまさしく子供に対する「冒瀆」である。感性豊かな子供を掛け声だけの挨拶でごまかせない。子供の心は、決して疎かにできるものではない。小学校の高学年ともなれば、教師の心の在り処を見抜く。ましてや中学生ともなれば誠意がなければ通



次もがんばってとぶよ!

常磐東小 鈴木 郁

四月、A子の担任になった。A子は内気で自分から人とかかわりを作ることが苦手な子である。二年前に担任したときも彼女はそのことで悩んでいた。

私は彼女を励まし、もっと自信を持たせることができないかと考え、彼女と交換日記をすることにした。

毎日の漢字練習のノートにメッセージを書いた。「毎日寒いね。かぜひいてない」「今日の跳び箱、がんばって勇氣を出して跳べたね。次も跳べるよ」とA子も「かぜひいてないよ。ちょっと鼻水出るけど大丈夫」「次もがんばってとぶよ」と返事を書いてきた。彼女が書かなくても私は言葉を書くようにし、交換日記が続いた。



三学期になり、A子に変化が現れた。彼女からよく話しかけてくれるようになり、放課も友達達の輪に入りドッジボールを楽しむようになった。

A子は帰りの会の後にきちんと係活動をしてくれる。「Aちゃん、ありがとうね」の言葉に、A子がにこりとした。そして、教室を出るとき、「先生、さようなら」といつもより大きな声で言った。その大きな声に私もうれしくなり、大きな声で「さようなら」と返した。

絆



常磐中 中里 芳弘

一学期、本校の卒業生で、今も活躍を続ける陸上選手のA先生が教育実習に訪れた。実習中のA先生は、一人一人の生徒にきめ細かく声をかけ、孤立しがちな生徒が仲間輪に加われるよう取り計らうなど、子供たち同士のつながりを意識して指導に当たっていた。

二学期終業式の日、大きな目標に



向かって努力を続けるA先生の姿から、努力することの大切さを学んでほしいと願い、クラス全員に激励の手紙を書かせた。生徒は、箱根という過酷な舞台に挑むA先生に、「箱根で一番を取ってください」と、大きな期待を寄せて手紙を書いた。

箱根駅伝当日、A先生は見事区間賞を獲得した。三学期初日、A先生の活躍を、まるで自分のことのように話す生徒たちに、今年の目標を書かせてみた。

「宿題を忘れない」「部活を頑張る」など、箱根に比べたら小さな目標かもしれないが、「A先生がやってくれたから、僕も頑張る」と、A先生の活躍を見て自分も努力しようという意気込み姿がそこにあった。そして、「箱根で一番」を見事にやり遂げたA先生と、その姿に自分を重ね合わせる自らが成長させようとする生徒との間に、強い絆を感じた。

じない。たかが挨拶と思われるかもしれないが、挨拶はすべての活動の始まりである。挨拶なくして、物事は始まらない。それほど価値あることとして挨拶を考えたい。

学校で日常的に挨拶をしていて気になることがある。挨拶をしても、時として返ってこないことがある。それは挨拶をした自分の側に原因があることが分かった。挨拶をするときは、基本的に相手の顔を見て、「Face to Face」でありたい。子供が、自分に向けて挨拶されているという自覚を持てるようでありたい。それに、声は少し大きめがいい。相手の顔を見て、張りのある声掛けをする、自分に対して言葉が掛けられていると感じて、初めて反応となる。日本の伝統文化においても挨拶は重んじられている。例えば、お茶の世界、茶道においては、礼儀作法のすべてが挨拶で成り立っている。お茶を通して挨拶をして、心を通わせていく。たかが挨拶という勿れ、茶道は挨拶で始まり、挨拶で終わる。子供たちが人と触れ合い、人のかかわりを持っていく大事な出会いとして、心ある挨拶ができるよう導きたい。



平成19年度 学校教育の視点

▲ 確かな学力 一六ツ美北中一

教育の基盤である教育基本法が、昭和二十二年の制定以来はじめて改正された。教育の根本にさかのぼった改革が必要だという理由からである。半世紀の間、科学技術の進歩、国際化・情報化・少子高齢化など、わが国をめぐる状況は大きく変化し、子供たちの道徳心や学ぶ意欲の低下、家庭や地域の教育力の低下など様々な課題が生じてきた。

こうした中、本市においては、六十九校の教職員が心一つにして、教育者としての使命感に燃え、力強く第一歩を歩みだした。各学校・園では、校長・園長のリーダーシップのもと、指導体制の確立を図り、信頼される教育の創造にいつそう努めたい。

本市の学校教育は、「確かな学力」と「やさしい心」、「健やかな体」を育み、信頼される学校づくりを推進することを指導の重点に掲げている。それは、未来を切り拓き、たくましく生きぬく力を身に付けた子供を育てるためである。

各学校・園では、今までの教育活動の成果と反省を踏まえ、その特色を生かした実践、創意工夫に満ちた取組を意欲的に実施していきたい。

一 学ぶ喜びを味わわせ、「確かな学力」を育む教育の推進

子供が本来もつ学びの欲求を、学

ぶ楽しさ・喜びとして高め、意欲をもって自らの力で社会を生きぬく基礎的な力をつけるために、次の二点に留意して指導したい。

第一は、基礎的・基本的な内容の定着である。子供が生涯にわたって成長・発達していくための基礎・基本を明確にし、繰り返し学んだり、体験的な活動を取り入れたりして確実に身に付けるようにさせたい。そこでは、進んで学ぼうとする意欲や、どう学ぶかという学び方・学ぶ力が重要になる。昨今の学力問題を払拭すべく、教師の努力で基礎学力の定着の徹底に努めたい。

第二は、周囲を取り巻く社会事象に目を向け、自分なりに気づき、課題意識をもって追究できる力を伸ばすことである。それによって、もっと知りたい、調べたいという意欲が強くなり、意欲的な学びが促進される。それは、子供たちが学ぶ楽しさや喜びを知り、生きてはたらく確かな学力を身につけることにつながる。さらに、子供一人一人を見つめ、個性を生かすことにも心がけたい。そして、学びをより効果的にするため、常に評価の観点や基準に照らし合わせ、個々の学びが確かなものになっているかを見極めていきたい。そのために、学習内容・計画の中に重点的に扱う内容と発展的に扱う内容を明示した「岡崎スタンダード」を各学校で効果的に活用したい。



▲ 特色ある学校 —北中—



▲ 豊かな心 —山中小—

学校教育に求められているのは、児童生徒が人間として生涯にわたって心豊かで、力強く生きぬくための基盤となる能力を育成することと、知・徳・体の調和のとれた感性豊かな人間形成を図ることである。

各学校においては、基礎的・基本的な内容を重視し、個に応じた指導を充実するなかで、児童生徒の個性を伸ばす教育を展開することが大切である。

そのために学校や地域の実態に応じて、創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成して、子供が自他を敬愛し、喜んで通うことのできる、安全で魅力ある学校づくりを目指す。

「教育は人なり」の至言のごとく、岡崎の教師は、教育者としての使命感に燃え、全校一致の指導体制のもと、敬愛の情で結ばれた師弟関係を確立し、学校と家庭と地域との連携のもとに信頼される教育の創造に努める。

指導の重点

- 一 学ぶ喜びを味わわせ、「確かな学力」を育む学習指導の推進
- 一 命の大切さを知り、他を思いやる「やさしい心」を育む教育の推進
- 一 自らを律し、たくましく生きる「健やかな体」を育む教育の推進

一 命の大切さを知り、他を思いやる「やさしい心」を育む教育の推進

生活や社会環境の著しい変化に対して、人間として豊かに生きることができるようになるために、資質と能力を他とのかかわり合いの中で育み、磨き上げていくことが強く求められている。

残念ながら本市では、ホームレス襲撃事件に中学生が関与していた。また、いじめ問題についても、未だに根絶されていないという現実がある。そこで、命の尊さや命を大切にすることの教育のいっそうの推進を図ることにする。さらに、人間関係の希薄化に歯止めをかける意味でも、人権教育に力を入れて取り組んでいきたい。

特に、人とかわる場面においては、見つめる心・思いやる心・感謝する心・我慢する心などをもつことが大切である。誠意ある行動をとることができれば、相手は心地よく受け止めることができる。そして、お互いの信頼関係が深まり、人としての「やさしい心」が醸成されていく。また、学校は「人が人間になるために」精進するところである。教師の人間性が、子供の人格形成に与える影響は大きい。教師自身が正義と倫理をもって、自己研鑽に励み、子供の手本としてふさわしい豊かな心と人格を磨き上げたい。

一 自らを律し、たくましく生きる「健やかな体」を育む教育の推進

「健やかな体」を育成することは『生きる力』に直結するものである。「健やかな体」とは、単に体力の向上と身体の健康をいうのではなく、そこに、自らの人生をたくましく生きる精神力が備わっていないと生かれない。

心身の健康の増進を図るには、保健体育科の活動だけでなく、全教育活動の中で計画的に行う必要がある。また、日常生活におけるスポーツに親しむ習慣や健康、食生活のあり方にも留意させることが大切であることを考えると、学校と家庭と地域との連携は不可欠である。

そこで、各学校が、子供たちや地域の実態等を踏まえ、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開したり、安全対策を講じたりしていくことが重要である。そのためには、指導方法の改善や工夫、スクールボランティアや教育マイスター、地域の教育力等を積極的に活用したい。さらに、オピニオン・サークルの活動や中学校区児童生徒健全育成協議会等を中心に、学区全体で子供たちを育てていくことも大切である。

以上、三つの重点に沿った教育活動を積極的に推進し、具現化を図るために教育活動の充実・向上を推し進めたい。



●教育最新情報

○新教育長就任



三月をもって退職した藤井孝弘前教育長の後任として前大樹寺小学校長 江村力(えむら つとむ)氏が任命された。

○全国学力・学習状況調査

四月二十四日(火)に全国学力・学習状況調査が実施される。

対象学年は小学六年生と中学三年生で、対象教科は国語と算数・数学である。調査問題は、①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に



影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていくことが望ましい知識・技能など(主として「知識」に関する問題)と、②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容(主として「活用」に関する問題)を中心に出題される。各学校においては、文部科学省の実施マニュアルに基づき、円滑な実施ができるように万全な体制で臨んでいただきたい。

この学力・学習状況調査を通して、児童生徒の学習改善や学習意欲の向上を図るとともに、指導方法の見直し、教育の改善に取り組むことが大切である。

○岡崎スタンダードの活用

岡崎スタンダードは、岡崎の子供たちの実態をもとに、「学習指導要領の内容で時間を十分にかけて指導する内容」(重点指導項目)及び、「学習指導要領を超えて学習する発展的な内容」(発展指導項目)を示した学習指導方針の根幹であり、学習指導要領の岡崎版ともいえるものである。

岡崎スタンダードは、学習指導計画に挟み込む形で、これまで小学校一年生から中学校三年生まで配布され、各学校で活用されてきた。

教育課程第一研究委員会において、内容等の見直し、修正を行い、このたび学習指導計画と合体させ、新たに「岡崎スタンダード」として製本・完成の運びとなった。各学校で十分に活用していただきたい。

また、岡崎スタンダードを参考に、各学校で児童生徒の実態に応じ、工夫して独自のスタンダードを作成し、確かな学力の育成に努めていきたいものである。

○初任者ガイドブック刊行

本書は、長年にわたり積み重ねてきた岡崎の先輩教員の知恵と技の結晶であり、新規採用教員の資質向上の一助となることを願って、刊行の運びとなった。

また、その内容は、「第I章 教師編」「第II章 学級づくり編」「第III章 授業編」「第IV章 子供理解編」「第V章 保護者理解編」「第VI章 資料活用編」と、教員として必要なあらゆるジャンルの内容を、できるだけ平易な表現で一冊の本にまとめてある。

日々の教育活動におけるガイドブックとして、手元におきながら有効活用していただけることを期待している。

なお、本書データを「岡崎市Web電子ファイリング」に登録してありますのでご利用ください。



▲初任者ガイドブック

●教育関係機関だより

○教育研究所

明大寺町 ☎23-0416

教育研究所は、「研修」「研究」「相談」の拠点として「学校教育の視点」(本誌参照)の実現を目指している。

平成十八年度は、二月末で教育文化館全体の利用者総数は四八三五四人(内研究所のみで一七六五〇人)となった。現職研修各部会をはじめとして、不登校相談室、そよかぜ(就学)相談など、多くの先生方や保護者の利用があった。

教員の資質向上に向けて、「人間性」「専門性」「指導性」「マネジメント能力」を身に付けられるように、初任者研修から管理職研修まで、ライフステージに応じた体系化を図っている。また、教育情勢を見据えた喫緊の課題にも対応できるように進めている。

さらに、今年度は臨床心理士を一名増員し、不登校対応指導員も設置する。教育相談の幅を広げるとともに、不登校対策の充実を図りたい。

●表 彰

◆第三十三回東海アンサンブルコンテスト
クラリネット八重奏
銀賞 竜海中学校
銀賞 岩津中学校

◆県小学生バレーボール新人大会
男子の部
優勝 矢作南小学校
第二位 竜美丘小学校
第三位 六ツ美南部小学校

◆第二回租税作文コンクール
岡崎税務署長賞
六ツ美南部小六年 市川涼葉
◆愛知教育文化振興会主催教育研究表彰
最優秀賞 美合小教諭 安藤仁史

●平成十九年度新任教員
平成十九年度岡崎市小中学校
校新規採用教員は、六十三名
(男性二十二名、女性四十一名。
配属は次のとおりである。

○小学校教諭 三十四名
梅園小 梅園小 弓
梅園小 村松香保里
男川小 和泉 篤
美合小 成瀬 美穂
緑丘小 海藤 健児
羽根小 清水真由美
岡崎小 峯澤 泰季
六名小 河合 祐子
竜美丘小 杉山 裕美
連尺小 西山 竜市
井田小 磯谷 宏子
井田小 濱島 桂子
福岡小 天野早紀子

○中学校教諭 二十六名
甲山中 天野久海子
甲山中 柳沢 杏葉
美川中 飯見 仁
南中 野尻 裕美
南中 田中 大貴
南中 井本 英里
竜海中 高橋 貴美
竜海中 後藤 美菜
竜海中 徳倉 秀紀
葵中 尾崎 愛弥
城北中 竹内のり子
城北中 松山 弘美

◆全日本中学校関係緑化コンクール
特選 学校林等活動の部 秦梨小学校
準特選 学校環境緑化の部 小豆坂小学校
◆松下教育研究財団主催子ども
ニュースプロジェクト
入賞 井田小学校
◆子どもニュース(KWN)コンテスト
入賞「感動賞」 美川中学校
◆野依科学奨励賞
科学奨励賞 豊富小教諭 園原誠
◆県少年剣道選手権大会
優勝 矢作北中一年 澤口 慧
◆県小学生バドミントン大会
優勝 六ツ美北部小三年 高木友美子
◆第四十回全国中学校文芸作品・
歌曲創作コンクール作文の部
第一位 常磐中二年 加藤彩乃
第二位 常磐中三年 安藤 翼
◆第十八回全国読書感想画中央コンクール
優秀賞 六名小一年 中川由理
奨励賞 美合小三年 原田野乃花
◆第十五回上廣「道徳教育賞」
優秀賞 六名小教諭 柴田泰枝
本郷一毅

◆全日本中学校技術・家庭科研究
会主催TX記念第七回全国中学
生創造ものづくり教育フェア
優秀賞 福岡中二年 井上洋輝
◆省エネルギーコンクール
最優秀賞 竜美丘小五年 棚橋祐佳
◆読書ゆうびんコンテスト
日本郵政公社東海支社長賞
岡崎市立美合小学校
県知事賞 美合小三年 河内健就

本宿小 稲吉 晃一
秦梨小 加藤 渡
常磐東小 白井 有紀
常磐小 稲垣 圭
恵田小 今枝 弘子
細川小 手嶋 亮
大樹寺小 高村 直子
大樹寺小 鈴木 大介
大門小 安田 美奈
矢作東小 浅井美己子
矢作東小 杉浦加枝子
矢作西小 松下 幸子
矢作南小 渡邊 康平
六ツ美中部小 柵木 綾
六ツ美北部小 足立 麻衣
六ツ美南部小 江畑 雅導
城南小 長坂 友香
上地小 小塚 啓代
北野小 舞原美智子
六ツ美西部小 山内 美保
下山小 及川 博之

東海中 近藤 雄介
東海中 伊奈久美子
矢作中 坂井 未来
矢作中 新井 淳子
六ツ美中 荻野 悠
新香山中 加藤 博樹
新香山中 長瀧 裕二
竜南中 北村 優也
竜南中 石田 有美
竜南中 近藤 園子
北中 板垣 幸亜
北中 武井 翔
六ツ美北中 浅井 美緒
六ツ美北中 有吉 修

委員長 大西 和夫
副委員長 石原 真吾
書記長 児玉 洋行
書記次長 竹平 真仁
組織部長 山元 嘉与
情宣部長 浅井 貞人
教文部長 熊谷 清一
福対部長 丹下 義輝
調査部長 近藤志づ代
青年部長 山盛 誠治
女性部長 小川真奈美
会計委員 中根 正光
執行委員 河合 正浩
青年部常任 鈴木 崇之

◆平成十九年度愛教組執行委員・常任
執行委員 鈴木 崇之
青年部常任 河合 正浩

○養護教諭 三名
岡崎小 亀山奈穂子
矢作南小 中根 清華
竜海中 田中亜矢子

○少年自然の家
須淵町 ☎47-23357

昨年度は、額田地区の小学
校八校を含め市内六十八の小
中学校の利用の他に、主催事
業を七回実施した。本年度は
開所三十周年を迎え、「ホテル
に親しむ夕べ」をはじめ、充
実した事業を予定している。
また、多目的広場に隣接し
て「ハイケの沼」が昨年三月
に完成した。小中学校の活動
や主催事業では、様々な水辺
の生物などを観察する子供の
姿が見られそうである。

○ハートピア岡崎
上衣文町 ☎48-4848
平成十九年度、創立二十三
年目を迎えます。今年度も
「一人でも多くの子の学校復
帰を願って」を目標として、
家庭・学校・専門機関と連携
しながら、進めてまいります。
特に、家庭に引きこもって
いる児童生徒にも家庭訪問な
どの方法で、手を差し伸べて
いきたいと思えます。

各校の不登校担当の先生を
窓口として、よろしく願い
いたします。

・題 岡崎市教育長 江村 力
 ・タイトルバック 甲山中 犬塚 孝
 ・カ ャツト 葵 中 志賀 孝人

一人一鉢栽培 (昭和38年)

写真提供：六ツ美北部小学校

本校では、昭和三十八年に「一人一鉢」栽培が始まった。この活動を通して、植物を育てる喜びを味わうとともに「いのち」を大切に育てる心を育てること。また、育てた苗を花壇に定植するなど、自分たちの育てた花で美しい環境をつくることにより、豊かな心を育むことを願って行われた。

この活動は学区にも広がり、各町の花壇も整備されていった。その結果、「学校環境緑化コンクール」や「フラワーブラボーコンクール」の受賞につながった。

多くの学校で「一人一鉢」栽培が行われ、育てた苗を学校間で交換する交流へと広がり、現在の「緑の銀行」の取組に受け継がれている。



岡崎の教育



新学期。校庭には桜の花が咲き乱れている。桜と言えばソメイヨシノが一般的だが、風に揺れる枝垂桜の風情もすばらしいものである。

一足早く奥山田の枝垂桜が満開だろう。慌ただしい毎日だが、心のゆとりを忘れないためにも、桜の美しさに触れたいと思う。

シオ スア

巣立ちの寂しさが、新たな出会いの喜びに一変する四月。教育改革が声高に唱えられ、学校を取り巻く状況も大きな変化を迎えようとしている。今までの教育活動の成果と反省を踏まえ、社会や保護者の声をしっかり受け止めて、学ぶ喜びに満ちあふれた顔を、共に作りたい。

大人社会の縮図ともいえるべき、子供たちの世界。はじめの問題があらためてクローズアップされている中、私たち大人が、子供たちときちんと向き合い、悩みや哀しみ、喜びを共有していくことが大切である。新たな出会いのあるこの四月。笑顔いっぱいスタートにしていきたい。

あいさつが響きわたる新学期。ひとときわ新人生の声に初々しさを感じる。期待と不安をもって新しい生活を始めた彼らが、これからの伝統や歴史を作っていくことだろう。先輩たちに負けないような、強い心と体を、この学び舎で身に付けてくれることを期待している。



*若者はなぜ3年で辞めるのか？

| | | |
|-------------|-------|-------|
| 光文社 | 城 繁幸 | ¥700 |
| *藤沢周平という生き方 | 高橋 敏夫 | ¥700 |
| PHP研究所 | 稲盛 和夫 | ¥1700 |
| *生き方 | 有田 和正 | ¥2160 |
| サンマーク出版 | | |
| *授業力アップ入門 | | |
| 明治図書 | | |

*人を動かすリーダーの言葉 片山 修

PHP研究所 ¥880

本書は、経営評論家である著者が、名だたる経営者たちへ、ここ10年有余に行った独占インタビューが厳選され収められている。バブル経済崩壊後、つらく険しい道のりを生き抜いてきた経営者の言葉には含蓄がある。企業マネジメントの在り方のみならず、言葉の背後にある「時代」を読む、また、危機的状況からはいあがった経営者の言葉を「人生訓」として読むなど、様々な角度から読み進めることができる。登場する113人のリーダーたち一人一人の人生哲学がそこにある。